

○蕾軒獨語 (其三十九)

蕾 軒 朝 比 奈 泰 彦

○みたきのりトきせがはのり

大正八年五月落合英二君ハ仙臺郊外三瀧ニ於テ廣瀨川原ニ起伏スル安山岩上ニ一種ノ地衣ノ着生スルヲ發見シ安田篤氏之ヲ「Thyrea」屬ノモノタルコトヲ檢定シタルモ其種名ヲ決定スルニ至ラズ其後予ハ落合君ヲ先達トシテ三瀧ニ至リ有子器ノモノヲ採リ後大正十五年木曾川沿岸上松附近ニ於テ同品ヲ採集シ最近ニ至リ駿河黃瀨川ノ河中ニ突出スル「ラバ」上ニ無子器ノモノヲ獲タリ予ノ木曾川採集品ハ ZAHLEBRUCKNER 博士ニヨリテ新種ト認メラシ「Thyrea hondoana A. ZAHLEBR.」ナル學名ヲ得タ其簡單ナル記事ハ Annales mycologici, vol. XXIX. no. 1/2, p. 19, 1931. ニ載テ居ル、此ノ地衣ノ和名ハ最初ノ發見地ニ因デ予ノ命名シタルモノデ本邦産 Pyrenopsidaceae 中ノ顯著ナル代表者デアアル、其外形ハ眞黒デ多クノ瓣片ガ一箇所ヨリ叢生シ幅二―四「ミリ」、多少直立シ分枝



みたきのり

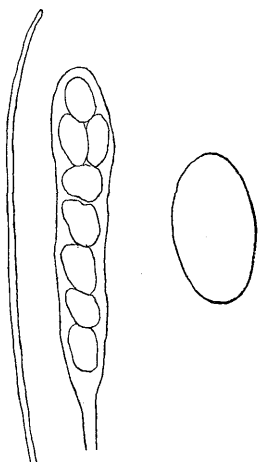
Thyrea hondoana A. Z.

×5 (蕾軒原圖)



きせがはのり *Thyrea* sp.

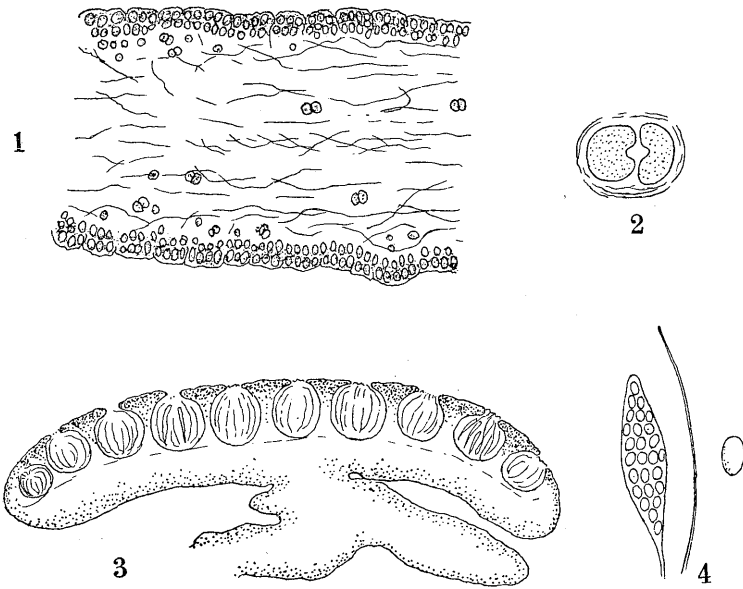
約×5 (蕾軒原圖)



きせがはのり

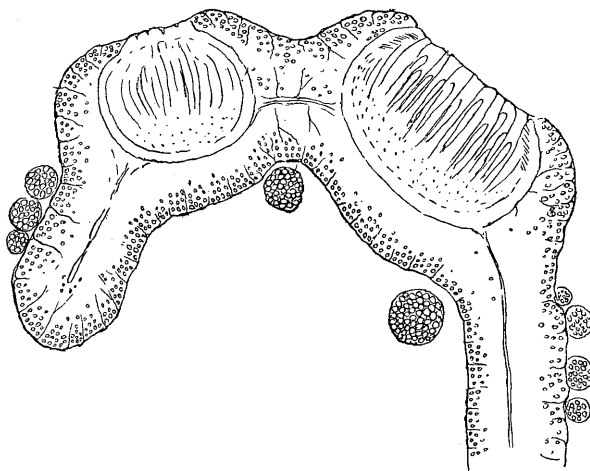
絲狀體、子囊及胞子

(蕾軒原圖)



みたきのり 解剖圖

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 葉體ノ横斷面 | 2. ゴニデア藻細胞 |
| 3. 群生セル子器縱斷面 | 4. 絲狀體ノ子囊及胞子 |
- (蕾軒原圖)



きせがはのり 子器ヲ有スル葉體ノ斷面 (蕾軒原圖)

シ高サハ一「セミ」位ニ至ル、表面ハ滑澤或ハ顆粒狀ノ裂芽ヲ具ヘ枝ノ先端ハ多少水平ニ廣ガリ鬚ヲ持テ居リ乾燥後ハ硬靱デアル、横斷面ヲ見ルト皮層ハ缺ケテ居リ髓層ノ菌絲ハユルク入レ交リ「ゴニデア」ハ兩面ニ接近シテ密集シ中央部ニハ稀デアル、此藻細胞ハ粘球藻^{グレオウサ}デ通常二箇宛厚キ粘膜ニ包マレテ居ル、此膜ハ表面ニ近キモノガ黃色ニ染マツテ居ル、子器ハ枝端ニ多數密集シ地衣體內ニ埋没シ僅ニ孔口ヲ現ハシ子殻ハ極メテ薄ク殆ド缺如ス、絲狀體ハ單一、子囊ハ囊狀又ハ紡錘狀、薄膜性大サ $60 \times 15 \mu$ 位デ多數ノ胞子ヲ含ム、胞子ハ無色單室球形又ハ橢圓體デ大サ $6 \times 5 \mu$ デアル

會々昭和六年四月ニ駿豆境近クノ黃瀬川河中ニ夥シク岩石ガ露出シテ居ル處デ前述ノみたきのリヲ採集シツ、アルトキコレニ共雜シテ少シク形態ヲ異ニシタモノヲ見付ケテヨク検査スルトコレモ亦「Thyrea」ニ屬スルモノデ其着生狀態ハ一見みたきのリニ似テ居ルガ形ガモット不規則デヘラ形ヤラ線狀デ分枝シテ居ルモノヤラ雜リ幅ハ一—五「ミリ」ヲ上下シ色ハ「オリーブ」褐色又ハ黒味ガカッタ「オリーブ」色デアル、表面ニハ顆粒狀ノ裂芽ガアリ地衣體ノ構造ハみたきのリニヨク似テ「ゴニデア」ハ矢張り粘球藻デアリ表面ニ近キモノハ其膜黃色ヲ帶デ居ル、子器ハ表面並ニ葉緣ニ疣狀ニ突起シ盤ハ初ハ狹ク後ヤ、開ク子囊ハ八子ヲ納レ胞子ハ橢圓形無色單室大サ $10 \times 6 \mu$ 位デアル、學名ハ未詳デアルガ取り敢ヘズさはのりト命名シテ置ク

○駿州江ノ浦採集旅行日記

ハシガキ

理學博士 白井光太郎

明治十七年三月下旬東京大學生物學第二年第二學期試業已了リ二週日ノ休暇來ル時ニ動物學教授箕作佳吉先生同助教授石川千代松先生植物學助教授松村任三先生同大久保三郎先生ノ四君ハ動植物採集ノ命ヲ蒙リ同教室